

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0972501035		
法人名	特定非営利活動法人フロレンス那須		
事業所名	グループホーム愛里須		
所在地	栃木県那須郡那須町寺子乙4402-2 (電話) 0287-72-0550		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年3月3日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(平成21年1月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人 8 人	常勤8人(うち兼務2人), 非常勤2人, 常勤換算6.0人 常勤6人, 非常勤2人, 常勤換算3.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	・光熱費-24,000円 ・公益費-10,000円 ・理美容代、おむつ代、個人的外出、出前、買い物等一実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(60,000円)	有りの場合償却の有無	無 (国交省のガイドラインに則して補修費等を差し引いて退居時に返還)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(平成21年1月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1		1 名	要介護2		4 名
要介護3		5 名	要介護4		5 名
要介護5		3 名	要支援2		名
年齢	平均 83.88 歳	最低	63 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田崎医院, 三田歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム名の愛里須には「愛あふれる ふる里・那須」の思いが込められている。敷地が広く、芝生敷きの中庭や広い畑などもあるが、職員たちが石拾いから初めて手づくりでホームを作ってきており、理事長、施設長、職員ともホームに愛着をもっている様子がうかがえる。また、入居者と職員の関係は良い意味で対等なものになるようにと考えており、入居者の自信につながるような声かけをしながら、生活の中での仕事を一緒にしている様子がうかがえた。家族や地域の方の来訪も多く、一日を通して笑い声が絶えることなく、時には冗談を言い合ったりしながら入居者同士、入居者と職員、職員同士が家族的な関係を築いているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価後にはミーティングで職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。これまでの評価の結果を踏まえて、記録の手法などの改善を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	理事長・管理者は、夜間もおそくまでホームに残っていることが多く、今回の自己評価も夜勤の時間帯に職員と話をしながらまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族の代表、自治会の方、老人会の方、民生委員、地域包括支援センター職員、町職員がメンバーになっており、ホームの運営状況等を報告し、質問や助言をもらっている。職員の名前が分かるようにした方が良いのではないかとという助言があり、ユニホームは着たくない等のホームの考え方も踏まえて検討して運営に活かした例がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や必要に応じて電話で暮らしぶりや健康状態の報告をしている。また、毎月管理者が家族に手紙を書いて送っており、その他に入居者の写真や職員紹介を掲載した「愛里須だより」を季刊発行している。入居者の写真は家族に差し上げたり、アルバムにまとめたりしている。重要事項説明書に苦情等の受付窓口及び対応方法を明記している。家族がホームを訪れた際になどに状況報告をし、要望や意見を聞いている。不満や苦情等については、職員間で話し合い、改善に努めている。家族会はないが、クリスマス会など家族が集まる機会もついている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	訪問日にも家族や自治会の方、商工会の方等がひっきりなしに来訪するなど、オープンな運営をしている。自治会にも加入しており、花市、だるま市、音楽会など町の行事にも参加している。畑づくりを通しての近隣との付き合いもある。ボランティアの方も毎月のように訪れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人を尊重し、人に感謝をし、人に真心で接する」を理念としている。また、運営方針として「人として尊厳を重視すること」「家庭的な楽しい雰囲気」「普段の暮らしの継続」「ユニット内での役割を」「地域交流スペース確保と実現」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務スペースに掲示しており、毎朝の申し送り時に唱和して、常に理念の確認をしている。理事長の提案で、以前、理念に対してどのような考え方を持っているか職員それぞれが記入し、確認したこともある。入居者を尊重し、入居者に感謝し、入居者と職員が「家族」として対等な関係であることを大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	訪問日にも家族や自治会の方、商工会の方等がひっきりなしに来訪するなど、オープンな運営をしている。自治会にも加入しており、花市、だるま市、音楽会など町の行事にも参加している。畑づくりを通しての近隣との付き合いもある。ボランティアの方も毎月のように訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価後にはミーティングで職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。これまでの評価の結果を踏まえて、記録の手法などの改善を図っている。理事長・施設長は、夜間もおそくまでホームに残っていることが多く、今回の自己評価も夜勤の時間帯に職員と話をしながらまとめた。	○	職員個々の振り返りの機会という意味でも、今後評価を実施する際には、全職員が自己評価を実施し、その結果を持ち寄って話し合うことにも期待したい。また、職員個々の評価の差異について話し合うことで、職員間の意識あわせに活かしていくことにも期待したい。

グループホーム愛里須

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族の代表、自治会の方、老人会の方、民生委員、地域包括支援センター職員、町職員がメンバーになっており、ホームの運営状況等を報告し、質問や助言をもらっている。職員の名前が分かるようにした方が良いのではないかとという助言があり、ユニホームは着たくない等のホームの考え方も踏まえて検討して運営に活かした例がある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に町職員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。共用型のデイサービスを始めたこともあって運営の相談や困難事例の相談等しながら、共に質の向上に取り組んでいる。	○	開設から約3年半、町役場や町社会福祉協議会の職員との交流がやっと出てきた、と考えており、より一層協力し合えるような関係を築いていきたいと考えている。役場等の公共機関が近くにある特性も活かして、今後更に連携を深めていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や必要に応じて電話で暮らしぶりや健康状態の報告をしている。また、毎月管理者が家族に手紙を書いて送っており、その他に入居者の写真や職員紹介を掲載した「愛里須だより」を季刊発行している。入居者の写真は家族に差し上げたり、アルバムにまとめたりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情等の受付窓口及び対応方法を明記している。家族がホームを訪れた際に状況報告をし、要望や意見を聞いている。不満や苦情等については、職員間で話し合い、改善に努めている。家族会はないが、クリスマス会など家族が集まる機会もつくっている。	○	家族等の要望などについては基本的に受け入れる姿勢があり、訪問日の様子をもみても家族等が気軽に訪れる雰囲気ができている様子うかがえる。また、家族以外の方についての来訪も快く迎え入れ、様々な声を聞く姿勢がある。ホームの大切にすべき核をしっかりと保ちながら、今後も様々な声を聞き、運営に活かしていくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の介護保険事業所は当ホームのみなので、職員の異動はない。離職者も多くはないが、新しい職員が入ったときには、いきなりケアに関わるのではなく、まずは入居者と一緒にお茶を飲んだりして、ゆったりした時間を共に過ごすことで入居者との関係をつくることを優先している。理事長・施設長がおそくまでホームにすることが多く、夜勤職員とゆっくりと話をする時間をつくっている。		

グループホーム愛里須

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会や講習会には出張で参加できるようになっており、研修参加後は報告書を作成している。ホームは県の最北部に位置しているが高速道路を使って研修に参加できるような配慮もされている。認知症介護実践研修などは経験年数等に応じて参加している。	○	施設長は認知症介護実践研修実践リーダー研修を修了していることもあって、職員の育成を心がけている。ホームとして必要な技術や知識などを検討しながら、計画的・効果的な外部研修の受講をすすめていくことに期待したい。また、毎月職員ミーティングを実施していることから、例えば職員が交替で講師役を務めるなどしてホーム内での勉強会を検討してみることに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び全国のグループホーム協会に加入している。隣市のグループホームとの交流があり、また隣の県のグループホームに研修に出掛けるなど、他のグループホームとの交流の中でサービスの質の向上を図っていく関係をつくっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学をしてもらい、入居後は1ヶ月程度は特に職員の関わりを多くしている。入居者が楽しめる雰囲気づくりに努め、入居者同士との関係にも配慮し、必要に応じて家族とも相談しながら、徐々に安心感を持って場の雰囲気に馴染めるようにしている。今年度から共用型のデイサービスを実施しており、退居後にデイサービス利用に変わった方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	パンフレットに「施設全体を『家』、入居者スタッフを『家族』と捉え、ふれあい・ささえあいを大切に」と明記している。訪問日には、入居者と職員と一緒に種まきの準備をしていたり、入居者にタオルをとってもらったりと、一緒に暮らす者として、良い意味で遠慮のない対等な関係づくりをしている様子が見られた。		

グループホーム愛里須

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の思いや希望を把握するように努め、職員ミーティング等で職員間での共有に努めている。また、家族やケアマネジャー等から本人の情報を把握し、入居者それぞれが、その人らしさを継続できるよう検討している。	○	職員が入居者と接する中で得た本人のしていたこと（生活歴）等は申し送りノートで共有化を図っている。人を尊重するという理念の実践のためにも、例えばセンター方式のアセスメントシートを使うなどして、生活歴や思いなど入居者の全体像の把握を更に充実させていくことに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を聞き、また家族からはホームに訪れたときに入居者の状況等を説明し、要望を聞いている。職員の受け持ち制を取り入れており、ケース担当会議等で職員の意見も踏まえながら介護計画を作成している。共用型デイサービスが始まったことで、居宅介護支援事業所のケアマネジャーとの連携も図られるようになった。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに、介護計画に沿った支援ができていないか、体調の変化等による見直しが必要か、等を家族とも相談しながらモニタリングを実施し、介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設長を含め2名の看護師がおり、医療連携体制加算の指定を受けている。さらに、今年度からは共用型のデイサービスを始め、退居後にデイサービス利用に変わった方もいる。また、理事長が車の運転をして買い物、お茶のみに出掛けるなど、柔軟な支援に努めている。		

グループホーム愛里須


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の対応が可能な協力医療機関を確保しており、週に1回の往診がある。協力医療機関で受診した場合には必要に応じてホームから家族に連絡し、家族が協力医療機関以外での受診付き添いをした時には必要な情報をもらって適切な医療が受けられるよう配慮している。1年ほど前に専門医と出会ったことで、入居者の状態がよくなることが増えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に「身体が重度化した場合における対応に係る方針（急性期における医療機関との協力体制）」を明記している。また終末ケアについては「原則として、利用者及びその家族の希望があり当ホームとの合意が成立した場合により終末までお世話いたします」と明記している。施設長を含め2名の看護師がおり、何かあった時には施設長がすぐに駆けつけられるようになっている。	○	重要事項説明書に言う終末ケアについての同意書は今までに交わしたことはない。現在のところ重度化や看取りに関する指針等は作成していないが、ホームの基本的な考え方や対応方針を文書化しておくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	「人を尊重し、人に感謝をし、人に真心で接する」が当ホームの理念である。全体的にはかしこまった感じの対応の仕方ではないが、職員は入居者と接する際にお互いの関係性を踏まえて、家族的な、あるいは友人的な関わり方をしていた。個人情報記録等はスタッフルームで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の自己決定や希望にそった支援ができるよう、業務の流れを止めても対応するように努めている。就寝時間についても一律に決めるのではなく、その方の希望によってある程度自由にしている。職員の動きにも慌しさは感じられず、ゆったりした時間の中で入居者と共に時間をおくっている様子がうかがえた。		

グループホーム愛里須

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問日が桃の節句だったこともあり、食事前には歌を歌い、ノンアルコールの白酒で乾杯をし、職員も入居者と一緒に会話を楽しみながら食事をしていました。準備・片付けなどは無理のない範囲で一緒に行っている。理事長が自ら厨房に入ったり、外食に出掛けたり、食の楽しみの提供に力を入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は一日おきの入浴が多いが、希望があれば毎日の入浴にも対応している。14:00から16:30ぐらいの時間帯で入浴を支援しており、入浴が苦手な方にも無理強いせず、希望やタイミングを考慮しながら気持ちよく入浴できるような支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物、調理、食器拭き等、入居者の好きなことや得意なことに配慮しながら役割ごとの支援をしており、職員が本人の自信になるような感謝の言葉をかけている様子も見られた。図書館、買い物、外食などに掛けたり、折り紙や縫い物を楽しむ方もいる。訪問日には入居者と職員と一緒に畑の種まきの準備をしていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出掛けたり、時には理事長が入居者を誘ってファストフード店にお茶のみに出掛けたりと日常的に戸外に出掛ける機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーをつけているが、職員が目配り、気配りで玄関に鍵を掛けないケアを実践している。		

グループホーム愛里須

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回の避難訓練のほか、年に2回は消防署立会いのもとでの訓練を実施している。夜間の勤務体制は、夜勤1名、宿直1名となっているが、週に1～2回の割合で夜勤者及び宿直者による夜間の訓練を行っている。地域の方への協力は運営推進会議を通して行っている。消防署がホームから至近にある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前、栄養士の資格を持った職員がおり、その時のものを参考にして献立をたてている。食事及び水分の摂取量を記録しており、体重測定を月2回行っている。必要に応じてトロミ、キザミなどの提供形態の配慮もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は木彫の造りになっており、天井が高い。共用空間には吊るし雛や雛人形をあしらった花瓶に生けられた季節の花木などが飾られていた。ホームの考えとして、紙等で作った壁飾り等を飾らないこととしており、照明の具合もあいまって落ち着いた印象の空間になっていた。廊下の隅のスペースには少人数でくつろげるようテーブルとイスが置いてあり、入居者が思い思いの場所で過ごせるようになっていた。気になる音や空気の様子等はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを持ってきてもらうようにしており、仏壇や神棚などを持ってくる方もいる。入居者は日中は共用空間で過ごすことが多い。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。